



## 支え合おう 助け合おう 皆の力で

～校長先生・夏休み前 講話より～

令和2年度は、日常生活でも「新しい生活様式」となったことにより、学校生活でも様々な変化が生まれました。

「今までのあたりまえ」があたりまえではなくなりました。

「新しいあたりまえ」がたくさんできました。

コロナとともに、生きていく時代。新しい変化に適応していくことへの適応力の大切さ・必要性について改めて感じた1学期間でした。

明日から、2週間の夏休みとなります。いつもの夏休みより1/3程度の期間です。短い夏休みとなりましたが、充実した生活を送ってほしいと思います。短い夏休み期間ですが、次の3つのことをしっかりと確認してほしいと思います。

1つ目は、「コロナウイルス感染症拡大防止のために『今』できることを再確認し、感染防止のために努力してほしい」ということです。自分がコロナウイルスに感染しないための努力はもちろんですが、感染させない意識も心がけましょう。愛知県のデータでは、PCR検査陽性者の95%程度が、軽症か無症状だったそうです。自分では分からないうちに、感染している場合もあるかもしれません。だからこそ、「自分は元気だから大丈夫」ではなく、「もしかしたら…」「かもしれない…」という意識で、感染させない行動を意識してほしいと思います。

2つ目は、「医療関係者への感謝の気持ちを忘れない」ということです。医療従事者の方々は、感染リスクを背負いながら、日々、皆のためにがんばってくれています。命を救う使命感で努力してくれている方がたくさんいます。直接、目にふれる機会はなかなかないかもしれませんが、全国の医療従事者の方々が一丸となって努力してくださっています。しっかりと感謝の気持ちをもちましょう。

3つ目は、「感染者とその家族や関係者に対して、差別をしたり偏見をもったりしないこと」です。7月31日に皆さんに再配付した「習慣づけよう！学校での新しい生活様式～弥北バージョン～」にも書かれていますが、新型コロナウイルスには「3つの感染」があります。1つ目は「病気としての感染」です。2つ目は「不安の感染」、3つ目は「差別の感染」です。この感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながってしまう危険性があることです。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、「私たちの人間性」を試されているのかもしれないかもしれません。だからこそ、思いやりの気持ちを持ち、お互いに支え合う気持ちや意識が大切だと思います。

おそらく、これからもコロナウイルスはなくなりません。これから先もずっとコロナウイルスと共生していくことになると思います。そのような社会では、「すべては、その人がどういう人間であるか」にかかっています。

わたしたちは、おそらく、もう元の世界には戻れません。これからの社会を生き抜いていくためには、「社会の変化に適応できる力」が不可欠です。来年度から完全実施される新学習指導要領では、これらの力を身に付けることが目標となっています。このことは、今回の新型コロナウイルスの拡大の状況の中で、その重要性が証明されたように感じます。

本校の教育目標は、「知・徳・体の調和がとれた人間性豊かで実践力のある生徒の育成をめざす」です。校訓は「至誠」です。

これからの時代を生きていく皆さんに、学校での学びを通して、「社会の変化に適応できる力」をしっかりと身に付けてほしいと思います。